

在日米軍の「綱紀肅正」声明は、聞き飽きた！－米兵の少女暴行事件に抗議し、米軍基地撤去を求める！

日本にはいま87の米軍基地（専用施設）があります。陸軍2千人、海兵隊1万6千人、海軍6千人、空軍1万3千人の在日米軍が駐留。海上の第7艦隊1万3千人含めて約5万人の米軍がいます。陸・海・空・海兵隊の4軍の部隊と司令部がそろっているのは世界で日本以外になく、西太平洋での米軍の最大の出撃拠点になっています。イラク戦争にも空母をはじめとする米艦船や海兵隊が在日米軍基地から展開し、米軍の地球規模の戦争を支えています。旧安保条約発効の1952年度から2006年度までに米軍が起こした事件・事故は20万4785件、日本人死者数も1081人となっており、被害は日本全土に及んでいます。特に「殴り込み部隊」として真っ先に戦場に送り込まれる海兵隊は沖縄に9割超が配属されており、凶悪事件を引き起こしています。1995年から2006年までに、米軍基地等がある都道府県別米軍人の刑法犯検挙数は、991件で473件（48%）が沖縄です。沖縄では、米軍基地外に居住している米軍関係者数は1万748人いる。彼らは住居登録されていなく、犯罪者が逃げ込めば、日本の警察は、極めて不平等な日米地位協定によって犯人の逮捕さえ出来ないのです。文字どおり基地外基地となっているのです。一方米軍基地内に墓地を持つ県民は墓参りさえできないのです。ロサンゼルスタイムズ紙によると、2006年に米軍内で発生が報告されている性犯罪は2947件。1日当たり実に8件強に上るのです。米兵は暴力で女性を「性の奴隷」にしているとしか思えません。戦争は人間から理性も知性も奪い、狂気に走らせるのです。

今年の2月10日、基地外に居住する海兵隊員が少女暴行事件を起こしました。その翌日にはタクシー強盗事件、その1週間後には沖縄在住のフィリピン女性が暴行を受けており、数日間に海兵隊員は住居侵入や飲酒運転で逮捕されています。米兵におびえ、事故におびえ、危険にさらされている日本国民の抗議の声は日増しに高まっています。そして米軍基地がある限りこのような事件は無くならないと認識し始めています。

1995年の少女暴行事件に抗議した県民総決起集会で、高校生代表が「私たちの静かな沖縄を返してください。軍隊のない、悲劇のない、平和な島を返してください。」と訴えて以降、米軍は幾度となく「綱紀肅正」をとらえ、日本政府は「再発防止」を約束したにも関わらず事態は改善されていなのです。沖縄県民に今回も同様な言葉が発せられたが、誰も信じていません。基地を提供している日本政府も加害の一翼を担っていることも認識し始めています。占領者意識をもつ米軍の存在そのものが犯罪のおおもとであることが一連の事件で明らかになったのです。海兵隊の撤退、基地の削減、撤去に踏み出さない限り同じような事件がくり返されるでしょう。

米国政府は8月に原子力推進空母「ジョージ・ワシントン」（9万7千トン）を横須賀基地に配備することを公表しています。原子力艦船は何度も核事故をおこしており、日米両政府がふりまく「安全神話」を信じるわけにはいきません。1年の半分を横須賀に停泊すれば核の危険が強まるのは当然です。この空母の配置は、横須賀を世界各地に「殴り込

む”本拠地にすることを意味します。横須賀市民と首都圏に住む3千万を核事故の危険にさらし、原子力艦船の日本への恒常的寄港に道を開く原子力空母の配備は拒否するしかありません。今、横須賀では、市民の手によって「原子力空母母港化の是非を問う住民投票」を成功させ、住民を核の危機から守る運動を進めています。日本国民は世界で唯一、原爆と放射能の恐ろしさを体験した国民です。核兵器は当然のこと、原子力推進艦船の受入れの拒否するのは当然のことです。憲法9条を変え、アメリカの戦争に参加し、戦争をできる国にしようとする現権のマニフェストに”No”と意思表示した国民は、世論調査で72%になっています。

2008・3

児嶋 徹